# 短期予報解説資料　２０２６年１１月１２日０３時４０分発表

気象庁

**１．実況上の着目点**

① 11日にかけて流入した下層寒気による高気圧の中心が東日本にあって南下。リッジに対応する高気圧の中心が九州西方にあって東進。両者の気団の境にあたる日本海に東進する下層雲域があるが、トラフも抜けており広がる様子はなく、全国的にこれらの高気圧に覆われて晴れている所が多い。

② 台風第32号は温帯低気圧に変わり、トラフ東側の日本のはるか東を高速度で遠ざかっているが、台風周辺を波源とするうねりや①の高気圧周辺で広く継続しているやや強い北東風の影響で、小笠原諸島ではうねりを伴いしけているほか、南西諸島でもうねりを伴って波が高い所がある。



主要じょう乱解説図

③ ①の高気圧とオホーツク海北部の低気圧の間で気圧の傾きがやや大きく、北海道地方では南西風がやや強い所がある。この後風をさらに強めるトラフ対応の低気圧がバイカル湖の東を南東進。

④ 中心に500hPaで-24℃の強い寒気を伴うトラフがボッ海付近を東南東進。

**２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点**

① 1項②の高波は次第におさまるが、小笠原諸島では13日にかけて、沖縄地方で12日は、引き続きうねりを伴う高波に注意。

② 1項③のトラフに対応する低気圧は12日夜には間宮海峡、13日には千島近海を進み、南西に連なる気圧の谷が13日にかけて北日本を通過。通過後の寒気の南下はなく天気の崩れはないが、北海道地方では13日にかけて強風に注意。また、新たな積雪が多くなった山地では13日にかけてなだれに注意。

③ 1項④の強い寒気を伴うトラフに対応して不安定域が13日未明から昼過ぎにかけて本州付近を通過。大気中層が乾いており広い範囲で対流雲が発達することはないが、2項②の気圧の谷の影響で顕在化する日本海のシアーライン、日本の東に中心をもつ高気圧西側を北上する気流の影響で生じるシアーライン付近では大気の状態が非常に不安定となり、局地的に対流雲が発達する見込み。北陸地方、東北地方、近畿地方、伊豆諸島では13日は、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

④ 14日には、トラフが夜には大陸東岸に進んでくるのに伴い、500hPa 5700m付近に前線がのびて、前線上の低気圧が黄海から日本海西部に進むほか、5820m付近の東シナ海から九州の南に前線がのびてくる。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島や西日本では翌15日にかけて、大気の状態が不安定となる見込み。前線の位置等に不確かさがあるが、落雷、突風、急な強い雨に注意。

**３．数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

**４．防災関連事項［量的予報等］** ① 雨量(06時からの24時間)：多い所（100mm以上）はない。

② 波浪(明日まで)：小笠原諸島 4、沖縄3m。

**５．全般気象解説情報発表の有無** 発表の予定はない。

---

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。